



特別
4
5260
1



門 4
5260
卷 1

昭和二十五年
十二月四日

拾遺和歌集

二十卷 舟貞八云云 千三百五十一首 袋草子 同之

八雲押抄云長法以公何相撰之歌一説花山法皇御撰也後拾遺集序云遺後云花山法皇ハ

信成也其集よりしるす事ありしなりて松尾集と名つけぬつりしは信成よりし人乃

別と拾遺抄よりし事ありし袋草子云拾遺抄舟貞八百八十六首花山院御撰一説云集々

花山院抄云何は八雲曰之は集乃守り抄の事

長明寺明抄云拾遺乃ゆりし抄事の外ありしかりてことりしかりしなりし

云る百人一首抄云松尾之古今とありしをた実わらむる集也

花山法皇御撰師貞冷泉院第一皇子御母御撰徳云乃抄しよめを大后之御子 永観二年十月

つせのひ浦五位より寛和二年六月廿二日おぼわさるの花のさしめりしをゆりしをゆりしをゆりし

十九法詳入寛弘元年二月八日つらつらとせりしをゆりしをゆりしをゆりしをゆりし

律他乃ゆりしをゆりしをゆりしをゆりしをゆりしをゆりしをゆりしをゆりし

公何云前梅家大徳云正二位母集云右出待云云同白太政大臣頼忠云彦成云乃一男母也明親王のいよあせ四系

大徳云下号云和漢朗詠集おむ十巻守合可六人守合号守也金玉集法皇御撰抄新撰醍醐和守九系

和山抄不作者能書和漢の老人とつり古今著明云押壹長云大井抄世魂の対待守の舟とゆり

各伝能乃人をのせりし押壹殿御系大徳云ゆの船のゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

物原大和の正し
主と此の金帳し
わらわとまをり
初春の春とつけれて
あしをまきしとや

春をとりてあしをり
雪はれさうさう
はるかに

及河社

元日初恒古の事

ま来て梅も開きけり
わらわの梅も
あつらひと
あつらひと

題三首

くさくさ

まきてあつらひ
あつらひと
あつらひと
あつらひと

天保十年正月九日
中知言朝忠

三葉石

梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

大伴家持
梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

梅原

大伴家持
梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

梅原

梅原

梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

梅原

梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

梅原

梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

梅原

梅原

あつらひと
あつらひと
あつらひと
あつらひと

梅原

梅原

とちりきへんがうらなふる
あつちのまねのふりて
をさるる
わらわの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち

年、意盛
兵部大輔馬行男
従五位下河吉

み院 守ぬれぬ女君の内証
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
河内権守一系八小太右
一系四乃中許 一系守之つれを可也

白梅の白いふきを
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
白梅の白いふきを
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
白梅の白いふきを
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
白梅の白いふきを
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち

ツチスゲ
一系九乃恒佐 九乃良世云息

あつち

あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち

あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち

あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち

あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち
あつちの梅をばらみ
つらじがしんがらぬ
あつち

その物多しゆき
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

あつたす
きりて

小中あれしとて
する人のちか
しあはれしとて
しあはれしとて

入道式部のちかのふり
まふふふふふふふふふふふ

入道式部のちかのふり
まふふふふふふふふふふふ

教實祝まのちか
三月おま法名覚真

大申能宣

祭主おま子後後後

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

あつたす
きりて

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

あつたす
きりて

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

大申能宣

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

大申能宣

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

大申能宣

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

大申能宣

花のうらみきりしとて
うへくや

花のうらみきりしとて
うへくや

大申能宣

に九し

芳野不傳しききしきわ雪とをてつるふおつるさちく懐くゆ

天曆御時レイケイテイシ藤原景房フジワラノカサキ中將ナカサウ東家トウケ并命ナヒノミコト

清原之輔フジノノサウ 保元文政 辰橋記

平きゆんよあのうへんりー

平きゆんよあのうへんりー

平きゆんよあのうへんりー

春月ハルツキとてしとあわむはりのひさるはじと

藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

天曆御時テンレイゴト藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

忠奉子 辰橋記

藤原景房フジワラノカサキ

春月ハルツキとてしとあわむはりのひさるはじと

藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

天曆御時テンレイゴト藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

忠奉子 辰橋記

春月ハルツキとてしとあわむはりのひさるはじと

藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

天曆御時テンレイゴト藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

忠奉子 辰橋記

春月ハルツキとてしとあわむはりのひさるはじと

藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

天曆御時テンレイゴト藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

忠奉子 辰橋記

春月ハルツキとてしとあわむはりのひさるはじと

藤原景房フジワラノカサキ 藤原景房フジワラノカサキ

友神の威合カヤを
足持て...
敷うひる花乃平々...
のぬ

題...
らふて...
延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

惠慶法師
梅廣法師
寛和八年

乃屏風
若く

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

延喜御時...
のぬ

たけなす
たけなす
たけなす

たけなす
たけなす
たけなす

たけなす

たけなす
たけなす
たけなす

たけなす
たけなす
たけなす

拾遺和歌集巻第二

夏

天曆御時乃奇合

大中臣能宣

天衣ノ命也夏の装束と野の羽衣とらつて
くはくはとせしむる色なきわらわの羽衣
あつちきき

屏風

たけなす

和歌集ハ夏ハ二十
お朱在位のおまのよまの
の料のほたけ

たけなす
たけなす
たけなす

源重光

中月正長云
花のまゝを
一ふんかきし

花のまゝを 知し 涙のおもひ ぬるる
まゝを 知し 涙のおもひ ぬるる

感明の子

上野太夫
延喜御子

五七のちりし
まの初春の使
はあけりし
とて

百首寄中母

あはれ
わが
まの

鳥出院御時片風寄

延喜三
年

平

あはれ
まの
まの

あはれ ぬるる ぬるる ぬるる
あはれ ぬるる ぬるる ぬるる

延喜三
年

同時の
あはれ

あはれ ぬるる ぬるる ぬるる
あはれ ぬるる ぬるる ぬるる

延喜御時飛鳥舎

小野宮

実秋情性云
貞信子

あはれ
まの
まの

あはれ ぬるる ぬるる ぬるる

あはれ
まの
まの

あはれ ぬるる ぬるる ぬるる

柳中人磨

あはれ
まの
まの

あはれ ぬるる ぬるる ぬるる
あはれ ぬるる ぬるる ぬるる

ふひらり下り
いしむめれど
まじりし山に
人々の心あり
ふれしきけしき
ふれしきけしき
ふれしきけしき
ふれしきけしき

天曆御時奇合

以上略城 加賀は是則男 投機

警舞を鳴るるやうに都云ふとらうに都の

平徳威

そこの中四付
乃守し

みらして舞もやきらう何ぞ鳴らして都の

寛和二年の重寄合

右大将道徳母 隆興守倫寧母 弟家云々方天下三人 婦人云々

おでめりや夜
まじりし山に
まじりし山に
まじりし山に
まじりし山に

お人ねをらるるやうに都云ふとらうに都の
女日乃子、の重寄合

延喜寺四京子四京子や下掛

那云らりなれい山り
人いしむとやま
をえまくと

坂上是則

山崎のよも時をいふらうに都の

天曆御時の奇合

王守忠見

夜更、守りて感
候てしおのやあ
おれれ人信あり
守りてしおのやあ
守りてしおのやあ

守りてしおのやあ

天曆御時の奇合

守りてしおのやあ

一色、同じ守りて
守りてしおのやあ
守りてしおのやあ
守りてしおのやあ
守りてしおのやあ

守りてしおのやあ

守りてしおのやあ

守りてしおのやあ

大前、四郎 右大女

山崎く...
一帯...
山崎く...
一帯...

延喜御時...
延喜御時...
延喜御時...

家集...
けふ...

延喜御時...

この...
延喜御時...

仁川の...
反や...

屏風

延喜御時...

陽年...
る...

延喜御時...
延喜御時...

金...
ひ...

延喜御時...
延喜御時...

六月...
は...

延喜御時...
延喜御時...

延喜...
延喜...

延喜御時...
延喜御時...

延喜御時...

延喜...
延喜...

延喜御時...
延喜御時...

郭公のいふるやいふる

はらゆふ

彼方から来た舟
船中、お姫様を
人よ、お姫様と
おぼしめし

かのいふるやいふる郭公のいふるやいふる

いふるやいふる

いふる

昔ながらの
うたのこころ
昔の歌は、
おぼしめし

郭公のいふるやいふる

いふる

いふる

いふる

郭公のいふるやいふる

いふる

郭公のいふるやいふる

いふる

大伴坂上郎女 万葉作者

郭公のいふるやいふる

中務

いふる

郭公のいふるやいふる

いふる

郭公のいふるやいふる

いふる

延喜御時中言言合

いふる

いふる

郭公のいふるやいふる

春のよきとき

藤原実方御時 中務

いふる

あややまらふり
いんよや 標徳山
大和郡上郡也
まじりてあややま
りてやいふれ出けり

あややまらふり
いんよや 標徳山
大和郡上郡也
まじりてあややま
りてやいふれ出けり

約一れい 物言

郭云々 月夜 三景 じいん 今 古 今

西宮四本 小朱彦面
子明神子 亦に 松原

西宮 三景 仲子
西宮 三景 仲子
西宮 三景 仲子

家集 六月 二十一日

源順

照村 八官抄 及山 八
矢大を 一 一 一
麻と 出く 身て
村に 三 三 三
も 子 知 丸 山 明 十 十 十

三景 仲子 三景 仲子
三景 仲子 三景 仲子
三景 仲子 三景 仲子

源順

家集 五月 十一日
山 一 一 一
と 欠 事 一 一 一

三景 仲子 三景 仲子
三景 仲子 三景 仲子
三景 仲子 三景 仲子

火倉山 山 師 也 一 一 一
一 一 一 一 一 一

平急感

あややまらふり
いんよや 標徳山
大和郡上郡也
まじりてあややま
りてやいふれ出けり

源順

袖 乃 介 乃 一 一 一
後 乃 介 乃 一 一 一

あややまらふり
いんよや 標徳山
大和郡上郡也
まじりてあややま
りてやいふれ出けり

源順

あややまらふり
いんよや 標徳山
大和郡上郡也
まじりてあややま
りてやいふれ出けり

河原院の 一 一 一
融云 家 一 一 一
万里 小 路 乃 一 一 一

源順

拾遺和歌集卷第三

秋

秋のくさきみゆるる

安法法師

内田公直子

秋のくさきみゆるるの
これをも感してしるる
秋のくさきみゆるるに
衣はれぬ也

秋のくさきみゆるる

秋のくさき

秋のくさき

秋のくさきみゆるるの
名はゆき高の秋
の町ありしと
つらうたふれし也

秋のくさきみゆるる

近喜河持の屏風

はつた

秋のくさきみゆるる

いひ

ひつりては...
あつては...

あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

伊勢

いずは後月月も人他をかくつらむをいふは

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

花火のよのこ
花火頭二人五位花火三人
六位四人此花火ともわきあ

あすのしほはんとくつらんかろうは先好の
世喜御時八月十五夜花火所のよのこ

月のえんしつちるる

藤倉経良

大學寺住持
肥前守

秋のえれあけりて
お袖のあけしと
てゆらんよ
こゝろとと神

みはら

北条
のま

孝子院御屏風

伊勢

うらみおのま
おれおのま
おれおのま

ふらん
三糸乃
九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

右大將定國家屏風

伊勢

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

伊勢

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

九月九日
九月九日
九月九日

あはれをてしとて林と
三つをれしとて林と
山にうあれし
庭のまをたのめれしとて林と
あはれをてしとて林と

よみこしとす

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

惠慶法師

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

あはれをてしとて林と
あはれをてしとて林と

多かるしこかしくね
名もれし林ハまじり
心し

ふんふんふんふん
林ハまじり

東山ふんふんふん
ふんふんふん
ふんふんふん

惠慈又法一

尺そやいん尺一てんし
ふんふんふん
尺ハまじり
尺そやいん尺一てんし

天唐時殿とのふんふん
ふんふんふん
ふんふんふん
ふんふんふん

源慈光
春三少進作者

切して板がしつて
切して板がしつて

板がしつて
板がしつて

ちくちくゆ
ちくちくゆ

ちくちくゆ
ちくちくゆ

景行天皇御宇
景行天皇御宇

景行天皇御宇
景行天皇御宇

二系右大臣
二系右大臣

二系右大臣
二系右大臣

法興院
法興院

法興院
法興院

尺杖
尺杖

尺杖
尺杖

尺杖
尺杖

尺杖
尺杖

五ノ二に

平道感

とゆいれ最と八分乃白く
阿向し言の林はみ
わらぬとえいふや
極言れつて也
老の教ふ教と
重之せううこれ

一高を法
師よりてゆし三四五
公何と
余情み

一高を法
師よりてゆし三四五
公何と
余情み

畧記

勝りけりしをいふは流るる七
流りあはるるし

ほつたま

ふれりし紅葉をいふは秋の
後をいひてとれぬ

屏風

年意感

法衣をいふも 時をいふも
ゆるけぬ

百首歌の中

深重之

長湯と小座と入て
吾れもさしほおを立

て信じてあきて かの
早井おれりて座の形

そぬと世をいふは流るる
川也の流るる

六月乃天の かりひひり
は奇といふはくさくさ

教養のねをいふは
いかりの流るる

みかろの流るる 水も
みかろの流るる

新しき世をいふは
下をいふは

下をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

鳥をいふは 鳥をいふは
鳥をいふは

紀友則

天京ハ中ちのちまに
一ノ山

月とカクある 惠慶法師

あはれる中ちあはれも さらさらとあはれもあはれ

いふ言とある 徳景明

一ノ山ハ山とあり
早クハあはれとあり
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

とある

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

伊路

山間と山盛とをいひてはあや
山盛物とてありてはあや

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

藤原佐忠初巻
出河運茂の
勅許由夜左

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに
あはれ中ちのちまに

山間と山盛とをいひてはあや
山盛物とてありてはあや

入道権政乃家屏風

法興院兼家公九条右大臣師楠公子

うらみちり

作者永弘公と云ふ

永弘公大信殿少愛御所
乃家と云ふ
大信殿を云ふ
世つらむも

せしねの葉をうらみちり
うらみちり

題名

乃家と云ふ
人しるべき
うらみちり

うらみちり

人丸

伴業抄云
元と久保と
村と余と

人丸

右左将之國之屏風

費

白雲

永弘公

冷泉院御時屏風

か

永弘公十二月
つらむも
うらみちり

ひ

屏風

永弘公
うらみちり

あ

石本

永弘公
うらみちり

あ

屏風乃家御時

か

永弘公
うらみちり

あ

永弘公

正表御河の屏凡

ついで

家集三十二月伝名ナリ
は行伝名此と見え
ありてんりて

伝名乃初ノ名ありて守
作と向く十二月傳名を
をやて取れりて初
守作存るよし

屏凡の伝名乃初ノ名ありて守作と向く十二月傳名ををやて取れりて初守作存るよし

とらへて物と見えて

いとていふていふて

屏凡乃初ノ名ありて守作と向く十二月傳名ををやて取れりて初守作存るよし

ついで

世人之説を記する事
伝名や一説ハ其の
言と傳名ナリ
見れば事ハ三十二

人ハ三十二月傳名ナリ

いとていふていふて

いとていふていふて

屏凡乃初ノ名ありて守作と向く十二月傳名ををやて取れりて初守作存るよし

いとていふていふて

屏凡乃初ノ名ありて守作と向く十二月傳名ををやて取れりて初守作存るよし

ついで

ついで

拾遺和歌集卷第五

賀

樂子内親王天曆と女太子十三代明親王

天曆御時女太子より侍る何の長奉

送使より侍る何の長奉

中納言初出

三原右大臣定方

亦云ハ市代の娘
之よりやぞ乃 ころのぬれりともよとわたりてしり共おど
多しなり

手紙来り男使知月上申日
云事根澤云平世余延勝三
神社を築立ると願望後祭礼
殿の守り上女内信じよ男使
只神使の守り者来りしとけなぬ
千代も公家とし候

大中臣能宣

らやさひのまのけけらもやら
大嘗會 御即位後天照大神ノ帝
御入を多しせらふ御代ニハ大
神ノ守り上女内信じよ男使
只神使の守り者来りしとけなぬ
千代も公家とし候

仁和の御時大嘗會の守

大嘗會 御即位後天照大神ノ帝
御入を多しせらふ御代ニハ大
神ノ守り上女内信じよ男使
只神使の守り者来りしとけなぬ
千代も公家とし候

浦守中五郎山守近臣(能のたまはれ歌)
君の御代にわしと住むまはら
玉の珠の山守命の
添われも也

よみん

かよのまれとふりしはあちをせんとはれれせ

贈白旗之のほろ屋の七世母長部江坂平公ヌニラ 四三三子 村上守子

のみあきとけるとはひりてあれとて奇

とばそ何ぞと 清意え何

切首をみ那未物ひき(具)
毎日出らるるや
十世とあるは
く(めと也)

藤氏のうめりまのりて

のふ

おはる春は(女子)とて
お島に家あれ本
おれ行なれんニ
おのほ(う)ま
あ(め)も

うたれ七夜りありて

ニテ(七)を(七)夜(七)り(七)あ(七)り(七)て

八百万の(う)い(は)を
と(れ)て(ゆ)り(ま)す

君(う)つ(じ)や(は)あ(れ)ど(か)れ(は)り(ま)せ(七)日(成)る

右大将藤原(貴)貴(貴)屋(の)七(世)母

平(の)り

松十(年)の(ま)れ
ま(資)云(は)て

あ(ふ)人(ら)う(め)な(り)ま(り)あ(り)ま(り)

り(の)し

お(の)う(ら)あ(き)歌
の(う)い(は)を
か(れ)た(れ)ん(ま)あ
は(ら)の(つ)し

藤原誠信(元)服(の)る(ま)ら(る)

源(順)

お(め)れ(は)り(ま)ら(る)は(ま)ら(る)は(ま)ら(る)

(の)か)

ふしれきいしやうやうゆるり何
大考 帝の御覧のよせり元依り

のり

元依りはこれ祖法しと後とゆひしりや
こと初りゆひしり
三位以上の袍(衣)の
多え根で(白)の
昇進を(移)る

山王の奥(福)寺(三)塔と
とし山(路)の(三)り(和)相
三年(藤)原(不)良(等)建(建)志
寺(命)經(命)長(を)と(の)り
孫(四)十(加)入(合)せ(る)金(流)
こ(出)て(四)十(を)付(け)る
あ(り)て(三)寺(の)中(に)て(三)塔(の)中
を(文)字(に)つ(ら)う(ら)る(わ)り
孫(名)金(信)云(々)人(々)の
孫(不)中(に)文(字)と(あ)り(水)石(を)う(の)形(に)せ(り)す(や)

天(唐)乃(方)と(口)中(に)あ(り)あ(り)る(河)山
踏(て)る(金)泥(壽)命(經)字(々)美(々)か(り)倍
孫(名)乃(て)あ(り)て(御)卷(を)取(替)め(さ)す(す)
州(原)の(巻)入
し(ら)せ(ら)る(あ)し(る)の(す)る(河)の(ま)る(わ)り
あ(り)る(河)あ(り)で(あ)り(る)中(に)
の(り)る(わ)

山王の奥(福)寺(三)塔と
とし山(路)の(三)り(和)相
三年(藤)原(不)良(等)建(建)志
寺(命)經(命)長(を)と(の)り
孫(四)十(加)入(合)せ(る)金(流)
こ(出)て(四)十(を)付(け)る
あ(り)て(三)寺(の)中(に)て(三)塔(の)中
を(文)字(に)つ(ら)う(ら)る(わ)り
孫(名)金(信)云(々)人(々)の
孫(不)中(に)文(字)と(あ)り(水)石(を)う(の)形(に)せ(り)す(や)

仲算法師
兵衛寺僧 在元寺 秋吉

山王の奥(福)寺(三)塔と
とし山(路)の(三)り(和)相
三年(藤)原(不)良(等)建(建)志
寺(命)經(命)長(を)と(の)り
孫(四)十(加)入(合)せ(る)金(流)
こ(出)て(四)十(を)付(け)る
あ(り)て(三)寺(の)中(に)て(三)塔(の)中
を(文)字(に)つ(ら)う(ら)る(わ)り
孫(名)金(信)云(々)人(々)の
孫(不)中(に)文(字)と(あ)り(水)石(を)う(の)形(に)せ(り)す(や)

仲算法師
兵衛寺僧 在元寺 秋吉

赤まの侍

吾れは(山)王(の)奥(福)寺(三)塔と
とし山(路)の(三)り(和)相
三年(藤)原(不)良(等)建(建)志
寺(命)經(命)長(を)と(の)り
孫(四)十(加)入(合)せ(る)金(流)
こ(出)て(四)十(を)付(け)る
あ(り)て(三)寺(の)中(に)て(三)塔(の)中
を(文)字(に)つ(ら)う(ら)る(わ)り
孫(名)金(信)云(々)人(々)の
孫(不)中(に)文(字)と(あ)り(水)石(を)う(の)形(に)せ(り)す(や)

久(く)あ(ま)り(竹)の(ま)は(の)り(と)る(れ)ひ(う)と(ま)の(ま)る(り)
あ(ま)り(竹)乃(ら)は(け)に(り)て(竹)を(る)る(ま)

大中に頼基

思(ひ)れ(ば)此(れ)を(つ)と(よ)も
つ(と)と(校)の(流)し

一(一)あ(ま)り(竹)乃(ら)は(け)に(り)て(竹)を(る)る(ま)
清(眞)云(々)十(加)入(合)せ(る)時(の)屏(風)よ

あ(り)て(す)け

文(字)云(々)論(号)に(お)け

法林の心くわけて
四つとあるとある

花の長しゆのくそ枝と
葉のていつたりしと
まき

わたりてかき事とまわりつるや
かき事とまわりつるや

天曆御時前載のえんき
清徳公

小部宮方取
清徳公

五本までかきつるに
美のきれし君也
万枝のりては流
まじり毎林のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

平徳盛

こやいしやしねらとせれ
よせあましくつとあ
あからね出のなり
らとせとあましつら
なほもまとい
お裁合 葉余のくそん
又前々 双葉合 根余のくそん
前々 ありしとせれ

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

まけつて 夏方より
まけつて 秋方より

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

後世と向ふ根より
十年のあれれし
あ代のくそん
あ代のくそん
あ代のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

あ代のくそんきれ
唐義のさゆとて人
さきりれ中のくそん

花は初めこのひて
つぎは力を
くくりに列の

わろくはくをひつるまゝの
源弘景ヒロノリの

三條大皇太后宮廣成

中はこれの速の字を
取のり馬の字を
かたふえきうて
神ののりにお
と向ひて

人乃波をゆきか
後頼体未考の

仲はかくはは太宰府の
史勢下ふ曲行か
りて利貞の由
集見のりてのり
能母の由のり
くを(方守と後集)

はつとくはくをひつるまゝの
つとくはくをひつるまゝの

つとくはく

上句は後の歌に
衣の枝もふれ
かたふえきうて

わろくはくをひつるまゝの
つとくはくをひつるまゝの

花は初めこのひて
つぎは力を
くくりに列の

わろくはくをひつるまゝの
つとくはくをひつるまゝの

花は初め

わろくはくをひつるまゝの
つとくはくをひつるまゝの

つとくはくをひつるまゝの

花は初めこのひて
つぎは力を
くくりに列の

わろくはくをひつるまゝの
つとくはくをひつるまゝの

つとくはくをひつるまゝの

つとくはく

作者外云定頼子
花山侯殿上法師
清原之嫡子

花は初めこのひて
つぎは力を
くくりに列の

わろくはくをひつるまゝの
つとくはくをひつるまゝの

利阿の輪種正(花山)

ふたりのあつらひ
おれは集乃作者難正
のふりて父とあつら
ひしとておへりて

しるはばははとてさわゆるししれら
いしとて

又れはふたりの
あつらひ

あつらひふたりのあつらひ
肥後守とて信玄捕さるゆる源

備仲とてゆるめりて
わさすけ
上総久經墨子
信守

老はのき園のり
ふたりのあつらひ

あつらひふたりの
あつらひ

つららちんふたりのあつらひ
しとてわらふとて

しとて

源満仲朝日
上総久經墨子
信守

あつらひふたりの
あつらひ

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

あつらひふたりの
あつらひ

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

石出門
源兼光也

あつらひふたりの
あつらひ

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

あつらひふたりの
あつらひ

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

藤原為頼
雅正男
太皇太后進

あつらひふたりの
あつらひ

あつらひふたりのあつらひ
しとてわらふとて

またのこけし白河園を
あつて西とほわん
ついでとほわん

をほわんをほわん
神よりいそ敷
ついでとほわん

みちのくまの白河園うへつらり

年意感

ふらわあつて都つらもじつと白河の園

實方朝臣みちのくまをわらわら

くつらつらと右衛門守と

あつてはつらつらとつらつらとつらつら

題し寸しつらとつら

神つらつらつらつらつらつらつら

恒徳のつらつらつら

まのつらつら

つらつらつらつらつら
つらつらつらつら
つらつらつらつら

つらつらつらつらつら
つらつらつらつら
つらつらつらつら

つらつらつらつらつら
つらつらつらつら
つらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

つらつら

つらつらつらつらつら
つらつらつらつら
つらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら

山脈と流るる水乃

山川をまじりて流るる水乃

おひり

流るる水のあふるる水乃

いづく一 茅欄 和名云一名 小青輝

流るる水のあふるる水乃

はらゆき

私人のあふるる水乃

流るる水のあふるる水乃

しとわさき 補相 せけみ

私に社殿の事とせしむる人

あつと今とていふ

古説 獲芳答あつとて如浮云

大和

古説 獲芳答あつとて如浮云

大和

古説 獲芳答あつとて如浮云

栗生山脈を定部し和名を

古説 獲芳答あつとて如浮云

古説 獲芳答あつとて如浮云

木乃山脈 引和説 木乃の山脈

和名麻鳴草 萩蕭 万尔芽

さげしやちと八五七
けんしやちと八五七

あすしやちと八五七

鼓若便抄 抄 七三三
あか

けみのみし

松抄 七三三

紀南時

未考

はれたるはれ
いけりあはれ

かりたれあはれ

じろりよ 和名権 六〇

高白草春

祇南 三皇大和

神さひのしらぬ

和名権 寺 け 木 文 子 蛸 貝 文 相 似
故 取 名 益 子

かりしきき

しん

奴猪乃石とてまら
昔の多牙とて
わしやまきのききりさんとて

つりあはれ

いさふし 花梅子

仙慶法師

未考

あはれしやちと八五七
さあめやちと八五七
さあめやちと八五七
さあめやちと八五七

あはれしやちと八五七

しし

しし

ゆげ乃権をてん
うらなれしやちと八五七
おく地とす

ゆげ乃権をてん

いさふし 榛子 和名

いさふし

ゆげ乃権をてん
ゆげ乃権をてん

ゆげ乃権をてん

いさふし 練指 和名

いさふし

今人の権をてん

今人の権をてん

いさふし 尾張米

いさふし

ゆげ乃権をてん
ゆげ乃権をてん
ゆげ乃権をてん

ゆげ乃権をてん

いさふし 松茸

いさふし

ゆげ乃権をてん

ゆげ乃権をてん

今人の権をてん
今人の権をてん
今人の権をてん

今人の権をてん

ゆげ乃権をてん
ゆげ乃権をてん

ゆげ乃権をてん

くしきもち 和名云蔓菁苗 俗用莖菜二字

心明人 心明人

薬蕪 和名云文選蜀都賦注药蕪其根肥白以灰汁煮麴成之

高梁相如 和名云高梁 官位亦不詳

山雀 和名云山雀 燕とつとるれりてめつて食ふ

大伴黒 和名云大伴黒 大伴黒子四代孫

鶏 和名云鶏 和名雀鶏小名也

花の莖比海 和名云花の莖比海

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

拾遺和歌集卷第八

雜上

上ノリヤ西懐徳回ノルナリ

村上皇子後中書王

中書卿具平親王

月神を侍て

うもれ物多しをまら
付くわらふもあわら
月 威情信れくきりな
証するんごの
あふ人打極む

可なり物言ふもきりし月をくもるうん

家集二家七月と
四月のあそ
ひは乃あし

清慎公家屏風 費く

あつとありとあつと久し月神を侍てはゆ

あつとあつとあつとあつとあつとあつと

大は為基 泰成守光子

女の哀傷日世を恨む
月を侍てまら
さむんあへん
うひは乃あし

うしふあつとあつとあつとあつとあつとあつと

法師あつとあつとあつとあつとあつとあつと

藤原守光 師捕鳥息女を養て四年
生可して後河内
住塔光三任

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

冷泉院のあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

藤原守光 任安南五位正房三十一
二月卒七十
住徳守益首四二男

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

伊勢

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

約率は馬をいれんは月乃
節といひて月乃不同
よりなきに極山法
るべきに極山法
い

家集二六四又屏風の
字をうけつる信也日
てし由あり
心明くおぼゆ
ておぼゆ

大明寺私照至公に私親として
ておぼゆとておぼゆ
支をうけつる信也日
と幽懐し世有極集
とておぼゆとておぼゆ
あつんとありのりきき
乃つてよ氣あつんとおぼゆ
ふいとえんておぼゆとて
義面あり

花よりゆりてゆるいふはし
八月の道

何よりあはれし 幸性法師

さらば月乃あはれしゆるいふはし

屏風のあはれし

はらわたりてゆるいふはし

足付程

久しあはれしゆるいふはし

庭義公後院よりゆるいふはし

人々のあはれしゆるいふはし

右大将源時

小室師忠公子
貞任公法

庭乃月乃ふし
沈むるあはれし
あはれし清とて

みきりふり月乃ふし

武部大輔之助

右大弁之親
茂永末

水のあはれしゆるいふはし

陸田乃あはれしゆるいふはし

三月十日

いづれかあはれしゆるいふはし

園融院御時屏風

いづれかあはれしゆるいふはし

権中知言教書西は

はらわたりてゆるいふはし
天をうけつる信也日
てし由あり
心明くおぼゆ
ておぼゆ

権中知言教書西は

はつらわすきげんり
もとやふ基はわす
龍乃のしほ甲
るねといふあしき

伊豫 中務 中務 中務
中務 中務 中務
中務 中務 中務

教忠つりきまを
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

北の北はつらわす
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

流るるしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

あまのしほ
あまのしほ
あまのしほ

夕べ舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

中見

打らぬまゝにこぎしつゝとほろりたる風をいよ
尾上の舟をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

正徳時舟見

かゝる此舟の舟人か
此の舟の舟の下に
舟の舟をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

舟人らも坐し舟をこぎしつゝとほろりたる風をいよ

あふのこやうといふ人
とてかりけりし
とけりし人

ふくあふ

ふくあふのこやうといふ人
とてかりけりし
とけりし人

評業

わつらや、おぼや
わつらや、おぼや
わつらや、おぼや

あふのこやうといふ人
とてかりけりし
とけりし人

あふのこやうといふ人
とてかりけりし
とけりし人

伊賀乃みゆふより
伊賀乃みゆふより
伊賀乃みゆふより

人

生乃由河津や
あつし八赤雲
あつし八赤雲

あつし八赤雲
あつし八赤雲
あつし八赤雲

内
御製

御製

詠歌成程の心
詠歌成程の心
詠歌成程の心

あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人

あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人

あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人

あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人

あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人
あふのこやうといふ人

仰平云白雲伝心息
小陸たは良きありて凡後かりて成るる
つるれまゝに成るる事なきに成るる

小舟をたぬるを

とれれ今ま
かたはるる
まはるる

とれれをきくはらわらぬるありてういとゆか
たをたつてふたのたれぬのじとま
のらとてつづのさなりとせしづれ

交言

九葉右府原補公カ五女ニ明本妻
後賢公母

いづれにいづれに
まはるる
乃ほまはるる
まはるる
まはるる
まはるる

大東國章
まはるる
まはるる
まはるる

大東國章 永承元年
昔名

一十一

わがまはるる
まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる

中書

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる

まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

まはるる
まはるる
まはるる

九近番と友佐伯の次

二条大右衛門近番長佐伯清忠とて

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

昇進叶ぬ歎乃因入大戴礼云
露降陽之気也陰気勝則
凝而為霜は因るもの事はるるからん

限るはるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

近番明

死をいとあはれ
ふかきついで
家昇進の時
秋のついで

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

いふ世はるるもの事はるるからん

これ八秋如來同位乃
阿摩訶訶羅陀王の
小千麻牟訶薩壇と

いふ世はるるもの事はるるからん

今明の秋とまゝに...

競勝春山...
之秋一時頼田王以秋判之

はるなす新くよと...
ついでつれとよき...

人しと...
宣んし...

春

國體院乃

と

大納言朝光

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

忠義公

ついでに...
...
...

目録...
...

九月...
...

五...
...

し...
...

又...

...

...

...

...

又...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

山...
...

...

...

因商や粟本邦...
五位叙中...
六位下...
七位上...
八位上...
九位上...
十位上...

海軍之舟れと...
あつた...
之...
れ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

三...
三...
三...
三...
三...
三...
三...

と...
と...
と...
と...
と...
と...
と...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

煙を水乃乾...
大東川山...
大東川山...
大東川山...
大東川山...
大東川山...
大東川山...

五位叙中...
六位下...
七位上...
八位上...
九位上...
十位上...
十位上...

其れよりと申すこと
と申すこと
其れよりと申すこと
と申すこと

ていすおひりふりたるはれおひとみりたる

御制 村上天皇也

大和権守時明女
内侍馬の母よまた将實彦具らりたるは
可なりと申すこと
と申すこと

小冊 安永

又申すこと
と申すこと
と申すこと
と申すこと

と申すこと
と申すこと
と申すこと
と申すこと

水乃浦と申すこと

と申すこと

と申すこと

と申すこと

被り流すこと

と申すこと

と申すこと

と申すこと

と申すこと

と申すこと

天保元年四月丁酉親王宣旨
八宮抄云云

東之陸太政大臣 兼左大臣
師範公

あはれしむのまゝも人たせられぬや

身もまてあしひとわかまも

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

兼左大臣
師範公

天保元年四月丁酉親王宣旨
八宮抄云云

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

あはれしむのまゝも人たせられぬや

中けハそりらんし本落しにきよ

検束のありし毎六航

ワキニヨシノ打

とけてあしんた口使

奥をあらふ人ハ地祇ノ神也云

祀人神ノ天ノカケテありと云々

定非古今ノ神也云

位名神本ニわすの古

多クハあり云々

はむ位名神田家神本ナリテ

ありし位名神本ナリテ

可聖ニナリ云々

神代事ハ其神乃

日向ノ極極極

朝ノありし位名

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

神乃ニ神乃ニ

好ふまじいばあはらうらめはけよとて

信者ニまうて 其法ノ師

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

源遠を初来ニシテ

之捕

平賀亦一申殿源氏ノ祖神ナリシ候ノ古ノ事ニハク平賀其のあやかし

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

あはらうらめはけよとて

何乃氏ハ氏ト明徳を以テトすト云ハ
人ト明徳を以テトすト云ハ
伊代を以テトすト云ハ
伊代ト云ハ

松久

清志

七上色ト云ハ
七上色ト云ハ
七上色ト云ハ

中世極楽ノ風ハ
中世極楽ノ風ハ
中世極楽ノ風ハ

おののけ
おののけ

おののけ
おののけ
おののけ

天孫ノ
天孫ノ
天孫ノ

天孫ノ
天孫ノ
天孫ノ

天孫ノ

大算舎ハ
大算舎ハ
大算舎ハ

大算舎ハ
大算舎ハ
大算舎ハ

大算舎ハ
大算舎ハ
大算舎ハ

大算舎ハ
大算舎ハ
大算舎ハ

大算舎ハ
大算舎ハ
大算舎ハ

山ノ
山ノ
山ノ

山ノ
山ノ
山ノ

山ノ
山ノ
山ノ

山ノ

山ノ
山ノ
山ノ

山ノ

山ノ
山ノ
山ノ

山ノ

山ノ
山ノ
山ノ

山ノ

山ノ
山ノ
山ノ



